

委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】
実施内容報告書

団体名：坂祝町

1. 事業の概要

事業名称	地域とつながる日本語教室
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	坂祝町は、総人口8,291人のうち、外国人595人。シェア7.2%を占め、岐阜県内第3位(参考：美濃加茂市10.2% 可児市7.9%)でありながら、2018年度まで日本語教室がなかった。(単発で実施するお料理教室や仕事の日本語などは開催していたが町外の参加者が多かった。)在住坂祝町外国人人口の内訳を見ると、永住・定住者が最も多く、さらに、配偶者や家族滞在を含めると、“今後長く住み生活者としての日本語が必要な人”として捉えると、77%にも上がる(その他の23%は、技能実習生や留学生が占めている)。また、立地として、坂祝町は美濃加茂市、可児市、各務原市の間にあるため、生活するには、利便性もよく、土地が安く一戸建てを購入する外国人も増え、“穏やかな町で、ずっと住みたい”というアンケート結果(2018年11月実施)も多数出ている。人口推移は2020年1月が過去最高で、今後も増加することが予想される。 生活していく上で必要となる日本語教室の開催及び継続が必要であり、坂祝町住民の一人として、“安心安全な暮らしができてい”と思えるような場作りを外国人と日本人が共にしていかなければならない。
事業の目的	・多くを占めている永住・定住者を年代別に見てみると、30～50代、そして、～10代が圧倒的に多いことから、親子世代に着目し、安心安全な暮らしの一つとして、“親子で学べる”日本語教室を展開する。 ・在住外国人への寄り添い方を学べる養成講座を開講し、支援者を増やす。 ・「生活者としての外国人」のための日本語教育の実施を坂祝町から発信し、この地域での課題を考えるきっかけづくりを行い、ネットワークを構築する。
本事業の対象とする空白地域の状況(空白地域を含む場合のみ記入)	
	＜日本語教育＞ 【1】親子で学ぶ日本語 日本の文化や遊びを詳しく学校では学ぶことができない内容を親子で学習した。(特に親)加茂警察署や坂祝町社会福祉協議会との交流によって、地域住民を顔見知りとなりより安全、安心な暮らしにつながる関係性を作りマナーや福祉の大切さも学習した。 (7月～12月)※1月～2月は新型コロナウイルスの影響で中止。 【2】職場で役立つ日本語 昨年度、参加者減少という課題があった。回数と実施期間を見直し、今年度は3ヶ月間(10月～12月)で、10回実施した。(1回1.5時間、平日夜) 坂祝町内の企業3社にアンケートの協力を依頼し、雇用外国人の日本語レベルや国籍、外国人にはどんなことを求めるのか、事前調査ができ教室運営に役立てた。 レッスン1…初めて会う レッスン6…仕事を休みたい レッスン2…あいさつをする レッスン7…わからないことを聞く レッスン3…新しい友達を作る レッスン8…困ったことを伝える レッスン4…することがわかる レッスン9…気遣いに答える レッスン5…電話で連絡をする レッスン10…誘いに答える 【3】生活の日本語 生活の日本語は昨年度に続き、防災や生活で必要な内容を計画していたが、コロナの関係もあり坂祝町の避難所を動画で紹介をしたり日本で話題になっているニュースを中心に教室の内容とした。 【実施方法について】 新型コロナ感染拡大防止の観点から、オンライン(ZOOM)でも参加が出来るようにした。 (第1回～第6回)会場とオンライン(ZOOM)の併用 ／ (第7回、第8回)オンライン(ZOOM)のみ 【4】多読で学ぶ日本語 1回1時間30分の中で、(1)1時間読書(多読) (2)15分ブックトーク (3)15分交流会を行った。 (1)読書(多読)は、①やさしいレベルから読む ②辞書を引かないで読む ③分からないところは飛ばして読む ④進まなくなったら、他の本を読む という手法を用いて、本に慣れ親しんだ。 (2)ブックトークは、お気に入りの一冊を選び、仲間に本の紹介を行い、本の良さ伝えた。 (3)交流会は、英語多読に参加した日本人と、ゲーム感覚で楽しくお喋りしたり、マナーなどを一緒に学んだ。

事業内容の概要	<日本語教育を行う人材の養成・研修の実施> 【①コーディネーター養成講座】 第1回～第8回を通して、受講者は学んだことを自身の現場で取り組み、中間報告会と最終報告会に自身が見出した課題・方策・改善のプロセス及び結果を受講者や関係者の前で発表をした。発表方法は、パワーポイント4枚にまとめ、持ち時間は一人5分。事前に発表主旨をA4・1枚を作成した。 (1)地域で活動するコーディネーターになるには (2)さまざまな施策や制度を知る (3)現状把握から課題設定、課題解決に向けた方略の検討方法を知る (4)地域の現状を知り、活動につなげる ～可児市国際交流協会の事例より～ (5)地域日本語教育に関わる人材や関係機関及び在住外国人の把握とネットワーキング ～各務原市役所職員の立場より～ (6)中間報告 ～参加者の取り組み発表を聞く～ (7)ファシリテーション力とは (8)最終報告 ～参加者の取り組み発表を聞く・振り返り～ 【②日本語支援者養成講座】 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となった。 【③外国人児童生徒等日本語指導】 ・異文化理解 ～外国のお友だちの文化を知ろう・小学校編 及び 中学校編～ フィリピンとブラジルの異文化を学んだ。 小中学校を会場にし、児童生徒、学校教員、地域地域日本語教室の日本語指導者が一緒に、研修を受けた。 ・外国にルーツのある子どもの就学前支援 多文化共生の視点から ～可児市国際交流協会 就学前支援「ひよこ教室」の事例～ 就学前の子どもの受け入れ方、日本語指導のあり方を学んだ。 ・やさしい日本語について学ぶ やさしい日本語とは何か？ やさしい日本語の作り方等を学んだ。 <教材作成> 職場で役立つ日本語教室で利用できる教材を作成した。
事業の実施期間	令和2年5月～令和3年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	各務 眞弓	可児市国際交流協会・事務局長
2	近藤 利恵	可児市国際交流協会・事務局次長
3	春成 浩治	岐阜県国際交流センター・局長補佐
4	武田 由美	美濃加茂国際交流協会・事務局長
5	古川 竜治	中日本自動車短期大学・留学生別科長
6	高橋 正郎	坂祝町・教育長
7	登田 アンナ	坂祝町・相談員



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年6月25日（木） 14:00～15:30	1.5時間	坂祝町役場 3階 大会議室	各務眞弓、近藤利恵 春成浩治、武田由美 古川竜治、高橋正郎 登田アンナ、小島瑞貴	・メンバー紹介：今年度から当該事業を運営するにあたり、委員への周知と役割の確認を行った。 ・今年度の取り組みについて：事業運営の経緯と、取り組み内容の説明を行い、連携先の協力を検討しながら、進め方の確認を行った。
2	令和2年11月13日（金） 10:00～12:00	2時間	坂祝町役場 4階議会 第2委員会室	各務眞弓、近藤利恵 春成浩治、武田由美 高橋正郎、登田アンナ 山田 久子、梅田千枝子 林 伸孝、小島瑞貴	各教室の中核コーディネーターが自ら途中計画を報告した。 委員の皆さんからは坂祝町の広報活動に力を入れるなど、日本語教室も地域で支えあっていくことをアドバイス頂いた。
3	令和3年3月15日（月） 10:00～11:30	1.5時間	坂祝町役場 3階 大会議室	各務眞弓、近藤利恵 春成浩治、武田由美 古川竜治、登田アンナ 小島瑞貴	各教室の実績報告を行った。来年度は坂祝町独自で日本語教室を開催していく旨をお伝えしたところ、2年間の文化庁事業の取り組みを生かし、この経験を誇りを持って活動していただきたと光栄なお言葉をいただいた。 来年度の繋がりを大事にし、ご協力いただきたいことをお願いした。

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	2016年度より文化庁「生活者」事業 プログラムBの空白地域立ち上げで尽力をいただいた可児市国際交流協会に引き続き運営や企画についてサポートしていただきながら業務を遂行した。 再委託先として、可児市国際交流協会を始め、多文化演劇ユニット「MICHU」や坂祝町で活動しているボランティア団体の多文化共生「すまいるひろば」と連携をして教室を開講することができた。他にも、日本語教室では、坂祝町にある中日本自動車短期大学に講師をお願いしたり、坂祝町社会福祉協議会や加茂警察署などと連携し、地域の団体や人材を活用した。
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	【日本語教育の実施】の中で、取り組み毎に中核コーディネーターを配置。 中核コーディネーターから関係各所とつながりを構築させるため、関係各所には坂祝町からの働きかけにより、潤滑に連携させた。 運営委員会のほか、中核コーディネーター会議を2回実施し、情報交換及び共有を図り、各教室の取り組みに反映させた。 第2回運営委員会では、中核コーディネーターも出席し、進捗状況を報告した。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:親子で学ぶ日本語】										
取組の目標		①多様背景や文化、考え方を持った子ども達、保護者同士がお互いに理解し合い、安心して日本で坂祝で暮らすことができるよう、外国籍の就学前の園児や小学生(親も含む)を対象とした学習や日常生活のルールを学ぶ支援活動を行う。 ②日本の遊びや日本文化、日本の四季、季節毎の行事を楽しむ様々な活動を通して、色々な日本語に出会うことにより、小学校生活や集団活動に必要な日常言語・学習言語に触れ合うことのできる和やかな居場所であることを目指す。 ③外国籍の子どもや親子が安心して楽しく過ごすことができる場を作り出し明るい未来と健やかな成長に少しでも寄与することを目的とする。								
内 容		・坂祝町在住外国人は永住・定住者の親子世帯の県下で3番目に多い。子育て親子の比率も高い方である。「子育て」の日本語に関する不安も問題として把握している。 上記のことから、親子で学べる日本語教室を開催し、参加した保護者が不安に思っていること・活動でやってほしい事等が話し合える場でありたいと考えた。 地域ボランティアが立ち上げ活動している「多文化共生すまいるひろば」を活動・交流の場とし、地域住民も外国籍の方々への接し方や寄り添い方を学ぶ場にもしたいと考えた。 ・後半、コロナ感染拡大のため思うように実践できず残念であった。 1回目 日本の夏に関する言葉や物について知る 2回目 日本の福祉 車椅子体験を通して「よりそう言葉」を知る 3回目 日本の季節 日本の秋について知る 4回目 さつまいも掘り体験をする 5回目 安心・安全な生活を送るために(加茂警察署) 6回目 日本家屋のつくりを知り、そこで習字体験をする 7回目 日本のお正月について知る 8回目 日本の簡単な遊び道具作りをする…中止 9回目 小学校生活を安心して過ごすためのことばルールについて…中止 10回目 小学校で学ぶ為の準備…中止								
実施期間	令和2年7月26日～令和3年2月28日				授業時間・コマ数		1回 1時間 × 2回 = 2時間 1回 2時間 × 5回 = 10時間 総時間 12時間			
対象者	地域に在住する外国人親子				参加者		総数 33人 (受講者 33人, 指導者・支援者等 11人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案の活用は特になし。									
使用した教材・リソース	ー									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			28				2		3	11
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和2年7月26日(日) 14:00～15:00	1	坂祝町 中央公民館	9	日本の夏	日本の夏に関する物や言葉を学習してもらい絵手紙風のうちわ作った		梅田千枝子	宮内智鶴子 金城アリーナ 笠嶋 誠 小島瑞貴	
2	令和2年9月27日(日) 14:00～16:00	2	坂祝町 中央公民館	20	車椅子を知ろう	坂祝町社会福祉協議会の職員に来てもらい、親子で車椅子の体験をした		梅田千枝子	藤澤利江 松浦一樹 金城アリーナ 笠嶋 誠 高橋正郎 小島 瑞貴	

3	令和2年10月11日(日) 14:00~16:00	2	坂祝町 中央公民館	26	日本の秋	今回のさつまいも掘りに向け日本の秋に関する物や言葉を学習した	梅田千枝子	宮内智鶴子 金城アリーナ
4	令和2年10月25日(日) 14:00~16:00	2	ほのぼの	33	秋の食べ物	実際に畑でさつまいも掘りを体験した	梅田千枝子	金城アリーナ 高橋正郎 笠嶋 誠 河村 利道 石井優太
5	令和2年11月15日(日) 14:00~16:00	2	坂祝町 中央公民館	33	交通安全	安心/安全な生活を送るために 加茂警察署の方に来ていただいた。 パトカーを実際に目の前で走行してもらい、 写真撮影をした	梅田千枝子	金城アリーナ 笠嶋 誠 河村利道 林 伸孝 (加茂警察署の方々)
6	令和2年11月29日(日) 14:00~16:00	2	ほのぼの	10	日本家屋	日本家屋の様子を観察し、 習字で「お」を書いた	梅田千枝子	金城アリーナ 林 伸孝
7	令和2年12月12日(土) 14:00~15:00	1	坂祝町 中央公民館	11	日本のお正月	日本の正月で遊ぶ道具で遊びの経験をした	梅田千枝子	金城アリーナ 千年陽子
8	令和3年1月23日(土) 14:00~16:00	2	坂祝町 中央公民館	コロナ感染予防対策のため、会場使用制限あり。 坂祝町及び坂祝町中央公民館との協議の結果、多読開催は中止となった。				
9	令和3年2月14日(日) 14:00~16:00	2	坂祝町 中央公民館					
10	令和3年2月28日(日) 14:00~16:00	2	坂祝町 中央公民館					

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 令和2年9月27日】
本来は坂祝町社会福祉協議会のデイサービスを訪問し、実際に高齢者の方々と触れ合い、やさしい言葉がけや車椅子で館内を散歩する計画をしていたがコロナの関係でその計画はなくなった。そのため、当日は坂祝町社会福祉協議会の職員の方に車椅子を持参していただき車椅子についての説明ややさしい言葉がけの説明をしていただいた。
実際に親子で車椅子に乗って車椅子を押したりと体験もできた。親子で笑顔の中取り組むことができた。



○取組事例②

【第5回 令和2年11月15日】
日本で安心・安全な生活を送るために必要な事をひとつでも覚えて欲しいという目的から、加茂警察署へ安全指導の依頼を行い当日講習会を行っていただいた。
制服姿で来ていただき紙芝居やお話、ロールプレー等で分かりやすく安心・安全な生活を送るために大切なことを教えていただいた。
①止まろう ②見よう ③待とう ④確かめよう の4原則を覚えた。



(2) 目標の達成状況・成果

母国の文化を大切にする一方、日本で過ごしていくためには日本の文化やマナー、言葉を学習してもらい子どもだけではなく親と共に学ぶことで家庭での会話や親からの理解を得ることができたのかどうかは、子ども達の様子を今後伺うことで成果が見られてくるのではないかと思います。帰ってもらう時には必ず、日本語(言葉)を覚えて読むこと・書くことができるように実践をしてもらった。

(3) 今後の改善点について

アンケートを活用してフィードバックをしていないため、どのテーマが一番ヒットしているのかが分からなかった。町内にはもっと外国籍の親子がいるため、広報活動を幅広く行わないと教室に参加している子どもと参加していない子どもの差が出てきてしまうかもしれないため、わかりやすいチラシ(やさしい日本語)を意識して周知をしていきたい。また、教室の会場がバラバラなため活動拠点を置きたい。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:職場で役立つ日本語】										
取組の目標		日本の職場においてマナーや基本を覚え、少しでも人間関係を良好に保たせる。								
内 容		事前に受講者の把握がてら町内の事業者3社に事前アンケートを実施したことで日本語のレベルを確認し授業のカリキュラムを組んだ。 職場で役立つ言葉やルールを学ぶことを中心にすることではなく、「会話」が続くための学習で、人間関係を良好に保てるように受講者に学習をしてもらった。 教室中は先生が言ったことに繰り返し復唱し教材に実際に書き込み、先生と会話の練習を行った。 レッスン1～レッスン10の構成で行った。								
実施期間	令和2年10月5日～令和2年12月14日				授業時間・コマ数		1回 1.5時間 × 10回 = 15時間			
対象者	地域に在住している外国人				参加者		総数 33人 (受講者 27人, 指導者・支援者等 6人)			
カリキュラム案活用	日本語能力評価を活用した。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			15	4			7		1	4
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和2年10月5日(月) 19:00～20:30	1.5	坂祝町役場	23	自己紹介	職場で初めて会う人に自分のことを紹介。相手にわかってもらえるようゆっくり・はっきりと伝えるよう意識をさせた。		古川竜治	土屋芳郎・兼松則子・北村史也 (指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴	
2	令和2年10月12日(月) 19:00～20:30	1.5	坂祝町役場	25	あいさつをする	会社でよく使う挨拶を覚えてもらい、どんな時にどんなあいさつを使うべきかを学習し、明るく元気に挨拶の練習をした。		古川竜治	土屋芳郎・兼松則子・北村史也 (指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴	
3	令和2年10月19日(月) 19:00～20:30	1.5	坂祝町役場	20	新しい友達を作る	自分の趣味・住んでいる所を紹介。自己紹介で言えるパターンを増やし、新しい友達を増やす練習をした。		古川竜治	土屋芳郎(指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴	
4	令和2年10月26日(月) 19:00～20:30	1.5	坂祝町役場	17	することがわかる	職場での上司・先輩からの指示を理解・確認・実行・報告をするまでの一連の流れを練習した。		古川竜治	兼松則子(指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴	
5	令和2年11月2日(月) 19:00～20:30	1.5	坂祝町役場	13	電話で連絡をする	職場に遅れる理由を報告するために、あやまること・理由のパターンを覚えた。併せて時間の言い方も練習をした。		古川竜治	土屋芳郎・北村史也(指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴	

6	令和2年11月9日(月) 19:00~20:30	1.5	坂祝町役場	12	仕事を休みたい	仕事に行けない理由を伝え、許可をもらうための練習をした。文法のパターンも学習した。	古川竜治	土屋芳郎・兼松則子(指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴
7	令和2年11月16日(月) 19:00~20:30	1.5	坂祝町役場	12	わからないことを聞く	わからない時、わからないことを聞く・聞いてもわからない時は丁寧にもう一度聞く・わかったらお礼を言うことを学習し、身の回りの標識の読み方を練習した。	古川竜治	土屋芳郎・兼松則子(指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴
8	令和2年11月30日(月) 19:00~20:30	1.5	坂祝町役場	11	困ったことを伝える	困っていることを相手に伝える伝え方を学習した。	古川竜治	土屋芳郎・兼松則子(指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴
9	令和2年12月7日(月) 19:00~20:30	1.5	坂祝町役場	6	気遣いに答える	相手の気遣いに答える。 前向きな答え方を学習した。	古川竜治	土屋芳郎・兼松則子(指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴
10	令和2年12月14日(月) 19:00~20:30	1.5	坂祝町役場	11	誘いに答える	誘いに答える。誘いに答えられない時の理由を相手に丁寧に伝え次回お願いすることを学習した。	古川竜治	土屋芳郎・兼松則子(指導補助) 登田アンナ恵美子(通訳) 小島瑞貴

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和2年10月5日】
レッスン1～初めて会う～
職場ではもちろん、初めて会う方に対しどんなあいさつが日本でされているかを確認した。
受講者同士は初めましてだったため、一人ずつ立って「大きな声」「ゆっくりと、はっきりと」「笑顔」「おじぎ」を意識してもらいながら実践をしてもらった。
受講生の中には技能実習生も居たりと日本語レベルは様々であったが、この取り組みのおかげで講師も一人ずつの日本語レベルが分かり今後の教室の展開がイメージできたようだった。



○取組事例②

【第10回 令和2年12月14日】
レッスン10～誘いに答える～
勤務中の会話だけではなく、人間関係の構築するためにご飯の誘いなどに対しての丁寧な断り方も学習してもらった。
受講者の中にはお子さんを持つ方も多く、子どもを理由とした断り方を実際に声を出して練習できたことに安心感がみえた。
たいせつな事として「誘われたことがわかる」「誘いを丁寧に断る」「できない理由を言うことができる」「次の機会をお願いする」といったように、せっかくの誘いをただ断るのではなく次への「お願い」を覚えることで人間関係が良い方向に繋がることも学習できた。
この教室は全レッスン講師自作のテスト(Web)を実施してから授業を終了した。
最終回は、教室に6割参加した人へ修了証を渡した。



(2) 目標の達成状況・成果

受講者の人数を昨年度より多くしたいという目標が昨年度は最終回が2名だったところ、今年度は11名と少しではあったが達成できたと感じる。
人数を減らさないためにも町内の企業に目を付けた。目を付けたヒントとしては、ある企業からの日本語教室の問い合わせだった。3社へ事前アンケートを行った結果2社から受講生が参加してくれたが途中から参加がなくなり最終的には1社となった。
しかし、今年度が終わっても来年度も新たな外国人を参加させていとの連絡をいただいたため、日本語教室を続けていけるきっかけを与えてくれたことは大きな成果だと感じている。
受講生からのアンケートでは、文法や会話。漢字も学習したいとのことであったため来年度のヒントにしていきたい。

(3) 今後の改善点について

- ・企業にいる技能実習生が受講者として参加しなければ参加人数は依然として増加しないことが分かった。
- ・シッターを取り入れるなどをして子どもを持つ家庭でも気軽に参加してもらえるような体制づくりをしなければと思った。
- ・今年度はサポーターとして3名参加してくれたが、もう少しサポーターが増えるよう広報活動をしていきたい。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:生活日本語】										
取組の目標		受講した在住外国人と日本人が日本語で交流ができるようになる。								
内 容		【「生活の日本語」実施内容】 1回 2時間 × 8回 実施 2019年までご近所づきあいや防災をテーマに実施してきた「ワークショップ」という教室スタイルが、新型コロナの感染拡大予防の観点から実施できなくなってしまったので、オンラインも導入した新たな教室スタイルを模索しながら実施した。会場で話す指導者をビデオカメラで撮影し、状況に応じてズームにしたり会場全体を映し出して、会場とオンラインどちらでも同じように参加できるよう工夫した。 参加者の年齢などの背景や興味、日本語レベルが違うことから、1回の教室で1つのテーマを掘り下げていくのではなく、いくつかのテーマやトピックを織り交ぜて教室を展開した。2回目以降は「前回の復習」を取り入れて、言葉の定着が出来るよう工夫した。 内容については、参加者から「こまっていること」「知りたいこと」を教えてもらい、その回答から「病院での言葉(体の部位やオノマトペ)」や「乗り換え案内アプリで目的地までのルートを調べる」などの活動を実施した。また、防災関連の情報や、その時々話題になっているトピックも紹介し日本の社会にも関心をもってもらうよう工夫した。 【実施方法について】 新型コロナ感染拡大防止の観点から、オンライン(ZOOM)でも参加が出来るようにした。 (第1回～第6回)会場とオンライン(ZOOM)の併用 / (第7回、第8回)オンライン(ZOOM)のみ								
実施期間	令和2年9月20日～令和3年2月7日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 8回 = 16時間			
対象者	日本の生活マナーや生活に関わる日本語を学習したい人				参加者		総数 65 人 (受講者 59人, 指導者・支援者等 6人)			
カリキュラム案活用	「活動シート」「ことば・表現シート」を参考にプログラムを検討した。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			53						6	
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和2年9月20日(日) 14:00～16:00	2	坂祝町役場	7	生活の日本語	・台風災害(台風10号)について ・災害時の避難所や避難者カードの記入方法について ・天気の情報アプリ		山田久子	住吉エリオ洋一(指導補助)、 住吉・イバン・ユウゾウ(指導補助)	
2	令和2年10月4日(日) 14:00～16:00	2	坂祝町役場	13	生活の日本語	・天気の話(ゲリラ豪雨など) ・体の部位の名前 ・国勢調査について ・休みを伝える日本語		住吉エリオ洋一	山田久子(指導補助)、住吉・イバン・ユウゾウ(指導補助)、高橋ロジェリオ(指導補助)、山口ヒロ(指導補助)、高橋アリサ(指導補助)	
3	令和2年10月11日(日) 14:00～16:00	2	坂祝町役場	8	生活の日本語	・体の内臓の名前 ・GoToキャンペーンについて ・乗り換えアプリで調べて、行き方を伝える		山田久子	住吉エリオ洋一(指導補助) 住吉・イバン・ユウゾウ(指導補助) 山口ヒロ(指導補助)	
4	令和2年10月25日(日) 14:00～16:00	2	坂祝町役場	8	生活の日本語	・自己紹介のポイント ・病院の言葉 ・オノマトベを使ってみよう ・NHKからの手紙について		住吉エリオ洋一	山田久子(指導補助) 住吉・イバン・ユウゾウ(指導補助) 高橋ロジェリオ(指導補助)	
5	令和2年11月15日(日) 14:00～16:00	2	坂祝町役場	6	生活の日本語	・方向の言葉(左右上下など) ・自分の住所を漢字で書こう ・葉書を送ろう		山田久子	住吉エリオ洋一(指導補助) 住吉・イバン・ユウゾウ(指導補助) 山口ヒロ(指導補助)	

6	令和2年11月22日 (日) 14:00～16:00	2	坂祝町役場	7	生活の日本語	・災害について(地震のメカニズム) ・家具の転倒防止について	住吉エリオ洋 ー	山田久子(指導補助) 高橋ロジェリオ(指導補助)
7	令和3年1月31日(日) 14:00～16:00	2	Zoom	5	生活の日本語	・交通ルール(右折矢印)について ・新型コロナと災害について(どこに逃げますか?)	住吉エリオ洋 ー	高橋ロジェリオ(指導補助) 山口ヒロ(指導補助)
8	令和3年2月7日(日) 14:00～16:00	2	Zoom	5	生活の日本語	・新型コロナの世界の感染者数(数字の読み方) ・ワクチン接種について ・バレンタインデーについて	山田久子	住吉エリオ洋ー(指導補助) 山口ヒロ(指導補助)

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

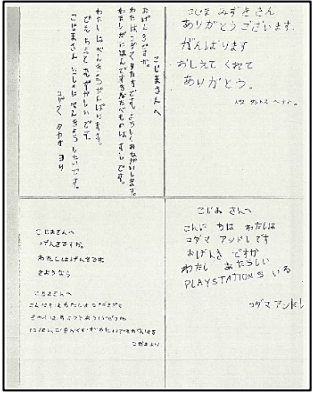
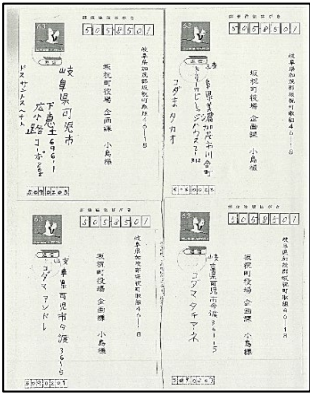
○取組事例①

【第3回 令和2年10月11日】
①自己紹介(名前、国籍、私の好きな食べ物など)
②前回の復習(体の部位の名前)
③第2回で実施した体の部位の名前に引き続き代表的な内臓の名前を確認した。(胃、心臓、肺など)
・参加者から「心と心臓は、同じなのか？違うのか？」と質問があがった。病院の看板などが胸のハートマークを「こころ」と書いてあるのを思い出したそう。生活の中にも学ぶチャンスがあることに参加者全員が気づくことが出来た。
④GoToキャンペーンについて知っているかアンケートを取りながら、旅行代金が安くなることを大まかに確認した。
⑤「旅行に行くなら、どこにいきたいですか？何をしたいですか？」をテーマに会話をした後、それぞれの行きたい場所に行くための交通ルートを携帯のアプリで調べ、発表した。
・出発地や目的地をどこにしたらいいか指導者や指導補助者と一緒に考えながら交通ルートを検索し、発表に向けて交通機関の名前や駅名、「乗り換え」などの言葉も確認した。



○取組事例②

【第5回 令和2年11月15日】
①自己紹介(名前、国籍、住んでいる場所など)
②前回までの復習(体の部位「(ゲーム)私が言う体の部分をさわってみせてください」)
③方向の言葉(上下左右、真ん中など)を図も使いながら確認した後、漢字も紹介した。
④自分の住所を漢字で書いてみよう！
・「岐阜県」「坂祝町」「可児市」などは一文字づつ書き順がついたイラストを用意し全員で確認した。会場参加者は指導補助者が、オンライン参加者は指導者がホワイトボードに書いて見せながら確認した。
⑤葉書を送ってみよう！【宿題】
・会場参加者には葉書を渡し、オンライン参加者には往復葉書を送って、坂祝町の教室担当者まで手紙を送ってもらった。差出人の欄には漢字やカタカナを使って自分の住所や名前を書いてもらい、通信スペース(裏面)には教室担当者にむけてメッセージを書いてもらった。



(2) 目標の達成状況・成果

・コロナ禍で行動が制限される中、多くの人々に参加してもらうことは出来なかったが、実際の参加者の内の半数の方が継続的に参加してくれた。

・アンケートの内容

①日常的に日本語でだれと話しますか？、②日本語で出来るようになりたいことはありますか？、③今日勉強した日本語は何ですか？、④今後勉強したいことがあれば書いてください。

・アンケート結果より

①ほとんどが「職場や学校」としているが、「だれもない」という回答もあった

②「コミュニケーションの方法が知りたい」「もっとおしゃべりしたい」という意見が多かった。

③その日に上げたトピック、その際に出てきた漢字を書いている人が多数いたが、他には「オノマトペについて知ってはいたが、病院でたくさん使われていることは初めて知った」との記述もあった。

④「携帯電話の乗り換え方法」「サイズ交換の方法」などの生活で困っていることの他に、「漢字」「日本語の基礎」などの日本語学習について書いている人もいた。

・ある参加者のアンケートの変遷を記す。

＜第1回＞②上司に質問する方法④運転免許所の更新について⇒＜第2回＞②なし④子ども達にアドバイスする方法⇒＜第3回＞②近所の人と話す方法が知りたい④日本で友達を作る方法⇒＜後半＞②近所の人と話す④一緒に働いている人と話したい

(出来るようになりたいことが、職場で必要に迫られている事柄から段々と外に広がっていき、最終的に職場や地域の具体的な人との交流を希望していることがわかる。)

この参加者は第1回では自己紹介をする際も小さな声で家族のサポートをうけながらであったが、第8回では笑顔で大きな声で答えることが出来るようになっていた。日本語レベルの向上というより教室に参加したことで心境の変化があったことが伺えた。他の継続して参加している人々にも同じような傾向が見られた。

以上のことから概ね目標が達成できたと考える。

(3) 今後の改善点について

・実施回数8回という中で、指導者と参加者の交流はたくさん持つことができたが、参加者同士の交流を持つことが難しかった。

・参加者の知りたいことは多岐にわたるため、正しい情報をどこまで提示していくのか、検討が必要。

・今回参加者の国籍に偏りがあった。様々な広報の方法を使って近隣住民に周知していく必要がある。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称： 多読で学ぶ日本語～多読で交流しよう～ 】										
目的・目標	多読の手法を用いて、言語習得の向上を図る。日本語学習者には日本語多読、日本人向けに英語多読を取り入れ、同時に双方が集まることで、地域住民として一緒に多読に取り組み、交流の場をもつ。 ・多読手法を身に付ける。 ・いろんな地域住民に参加してもらう。									
内容の詳細	1回1時間30分の中で、(1)1時間読書(多読) (2)15分ブックトーク (3)15分交流会を行った。 (1)読書(多読)は、①やさしいレベルから読む ②辞書を引かないで読む ③分からないところは飛ばして読む ④進まなくなったら、他の本を読む という手法を用いて、本に慣れ親しんだ。 (2)ブックトークは、お気に入りの一冊を選び、仲間に本の紹介を行い、本の良さを波及させた。 (3)交流会は、英語多読に参加した日本人と、ゲーム感覚で楽しくお喋りしたり、マナーなどを一緒に学んだ。									
実施期間	令和 2年 10月 17日～令和 3年 1月 16日				授業時間・コマ数		1回 1.5時間 × 5回 = 7.5時間			
対象者	在住外国人親子・日本人親子 在住外国人・日本人の中高生・成人				参加者		総数 39人 (受講者 29人, 指導者・支援者等 10人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案の活用は、特にないが、ポートフォリオの記録方法を参照に、ブックトークシートを作成した。									
使用した教材・リソース	NPO多言語多読のホームページ、レベル別日本語多読ライブラリー、英語絵本									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
			18							11
日本語教育の実施内容										
1	令和2年10月17日(土) 13:30～15:00	1.5	坂祝町 中央公民館	(日) 5 (英) 4	多読の方法を学ぶ	多読を始める前に、「多読とは何か」、「多読の4つのルール」を説明し、本を読み始めた。ブックトークを行った後、「保育園のおたよりが読めない」というテーマで外国人と日本人の交流を行った。		近藤利恵 カミング・マルジ	村上ヴァネッサ(通訳) ナカハタ・ダ・シルバ・ヨシエ(保育)	
2	令和2年11月7日(土) 13:30～15:00	1.5	坂祝町 中央公民館	(日) 13 (英) 3	多読の方法を学ぶ	多読を始める前に、「多読とは何か」、「多読の4つのルール」を説明し、本を読み始めた。ブックトークが盛り上がり、英語多読と交流まで行けなかった。		近藤利恵 カミング・マルジ	村上ヴァネッサ(通訳) 伊藤章子(サポーター) 内田エレナ(保育)	

3	令和2年11月21日(土) 13:30~15:00	1.5	坂祝町 中央公民館	(日) 7 (英) 5	多読の方法を学ぶ	多読の方法はだんだん慣れてきた。最後に3グループに分かれて、生活の身近な話題をテーマでおしゃべりを目的に、外国人と日本人との交流をした。	近藤利恵 がリング・マルジ	村上ヴァネッサ(通訳) 伊藤章子(サポーター) デ・シモネ・ルシアナ(保育) 登田アンナ(保育)
4	令和2年12月5日(土) 13:30~15:00	1.5	坂祝町 中央公民館	(日) 3 (英) 9	多読の方法を学ぶ	日本語学習者は、多読のレベルがだんだん上がってきた。英語多読は、親子での参加者がいて、楽しんでいた。今回は、日本人と外国人が質問を出し合い、ゲーム感覚で楽しめる交流をした。	近藤利恵 がリング・マルジ	村上ヴァネッサ(通訳) デ・シモネ・ルシアナ(保育)
5	令和2年12月12日(土) 13:30~15:00	1.5	坂祝町 中央公民館	(日) 2 (英) 2	多読の方法を学ぶ	黙々と読書を楽しんでいる。今回の交流会は、日本のマナーを取り入れたゲームを行い、上座下座を学び、車内の席次を体験した。	近藤利恵 がリング・マルジ	登田アンナ(通訳) デ・シモネ・ルシアナ(保育)
6	令和2年12月19日(土) 13:30~15:00	1.5	コロナ感染予防対策のため、会場使用制限あり。 坂祝町及び坂祝町中央公民館との協議の結果、多読開催は、中止となった。					
7	令和3年1月9日(土) 13:30~15:00	1.5						
8	令和3年1月16日(土) 13:30~15:00	1.5						

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和2年10月17日】

多読を始める前に、「多読とは何か」、「多読の4つのルール」を通訳を入れながら説明し、本を読み始めた。どんな本を選べばいいかわからない学習者には、指導者が寄り添い、日本語レベルに合わせて読めそうな本を勧めた。ブックトークは、全員がブラジル人だったため、リラックスできるポルトガル語で行った。交流会は、英語多読で参加した日本人と一緒に、「保育園のおたよりが読めない」というテーマで、どうしたら問題がクリアできるのか、いろいろなアイデアを出し合った。

Vamos seguir as quatro regras :

😊1

Leia a partir de um nível fácil

😊2

Leia sem usar um dicionário

Veja as ilustrações e entenda nas frases que se seguem

😊3

Leia e pule o que você não entende

Mesmo se você não pode ler tudo, você apenas tem que gostar de ler!

😊4

Se você não entender,leia outro livro



○取組事例②

【第4回 令和2年12月5日】

日本語学習者の多読のレベルがだんだん上がってきた。英語多読では、親子での参加者がいて、英語の本を楽しんでいた。交流会では、日本語学習者と日本人が相手のことを知るために質問を出し合うといったゲーム感覚で楽しめる交流を日本語で行った。



(2) 目標の達成状況・成果

学習者は、多読の手法に最初は戸惑いがあったが、慣れてくると日本語の本がどんどん読めるようになり嬉しそうだった。併設されている図書館で本の貸し出しを申し出るなど、続けて日本語の本を読んでみようという意欲的な学習者が増えて良かった。
この教室に集まった日本語学習者と英語学習者が少しの時間ではあったが、テーマを決めてお喋りをしたり、ゲームをしたりして交流を深めることができた。

(3) 今後の改善点について

「多読とは何か」という周知もチラシに織り込んだが、なかなか興味が湧かなかったようだ。発信力のあるブラジルキーパーソンを頼りに受講者が集まった。
企画当初は、親子で多読に親しみ、外国人親子と日本人親子で交流を図ることにしていたが、実際に始まってみると、親子での参加者が少なく難しかった。
小中学校の児童生徒全員に教室開催のチラシを配布したが、一組もヒットしなかった。配布するだけでは思いが届かないため、教室の趣旨説明や意義などを伝えて渡すなどの工夫が必要だと思った。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:地域で活躍するためのコーディネーター研修】	
取組の目標	コーディネーターの意義や役割を学び、活動を実践するためのさまざまな資質や手法を身に付ける。 ・受講者が講座で学んだ知識を自身の現場で生かすこと。 ・受講者同士のネットワークの構築を目指す。
内 容	第1回～第8回を通して、受講者は学んだことを自身の現場で取り組み、中間報告会と最終報告会に自身が見出した課題・方策・改善のプロセス及び結果を受講者や関係者の前で発表をした。発表方法は、パワーポイント4枚にまとめ、持ち時間は一人5分。事前に発表主旨をA4・1枚にまとめ、受講者全員分を一冊の冊子にしお手元に準備していただきながら発表を進めた。 〔受講者が報告会に向けて取り組み、作成したもの〕 【1】実践活動計画シート 作成後、アドバイザーから指摘をいただいた。 (1)誰(どこ)と連携して、誰(どこ)と誰(どこ)を繋いで、何のために調整するか (2)解決すべき課題設定 ①課題が発生している場所 ②課題に関わっている人 ③課題は何か ④課題によって困ることは何か ⑤課題が解決するとどうなるか (3)具体的な取り組み ①目標 ②取り組み内容 ③行動計画(9・10・11・12・1・2・3月) 【2】中間報告会 (1)要旨(A4・1枚) ①団体紹介 ②課題設定 ③本研修における取り組み ④今後の計画 (2)投影用資料(パワーポイント4枚) ①問題点(課題は何か ②問題・課題が発生している場所や人を図式化し、自分の立ち位置を示す) ③どんな目標を掲げたか ④目標に対し、どんな取り組みをしているのか(するのか) (3)コメントシート 受講者の発表後、記入し、後日、本人にお渡しをした。 ①活動改善のためのアドバイス ②活動に役立つ情報の提供 (4)後日質問用紙 ①発表者への質問 ②講師への質問 【3】最終報告会 (1)要旨(A4・1枚) ①団体紹介 ②課題設定(課題・課題経緯) ③本研修における取り組み(取り組み・連携先) ④取り組みに対して見えてきた成果と新たな課題 (2)投影用資料(パワーポイント4枚) ①表紙(テーマ、課題) ②取り組み ③成果 ④新たな課題 (3)コメントシート 受講者の発表後、記入し後日、本人にお渡しした。 ①良かった点 ②活動改善のためのアドバイス 又は質問 〔講師による講座:「養成・研修の在り方」に掲げられているテーマ〕 第1回 東海日本語ネットワーク副代表 米勢 治子氏 地域日本語教育のプログラムデザイン〔課題設定からのプログラムの策定・実施・点検・評価・改善〕 第2回 文化庁日本語教育専門職 松井 孝浩氏 在留外国人と日本語教育 〔①在留外国人施策・入国管理制度 ②日本語教育に関わる国の施策 ③在留外国人に関連する法制度〕 第3回 可児市NPO協会 理事長 山口由美子氏 地域日本語教育のプログラムデザイン〔事例研究〕 第4回 可児市国際交流協会 事務局長 各務 眞弓氏 在留外国人と日本語教育〔地域における外国人の出身国の最新の動向〕 第5回 各務原市役所観光交流課 梅田 宅真氏 地域日本語教育の体制整備に向けたコーディネーターの役割〔組織マネジメント〕 第6回 東海日本語ネットワーク 副代表 米勢 治子氏 中間報告会 第7回 NPO法人PAVLIC 河野 悟氏 地域日本語教育の体制整備に向けたコーディネーターの役割〔組織マネジメント〕 第8回 東海日本語ネットワーク副代表 米勢 治子氏 最終報告会

実施期間	令和2年8月23日～令和3年3月7日					授業時間・コマ数	1回 2時間 ×6回 = 12時間 1回 3時間 ×2回 = 6時間 総時間 18時間			
対象者	・日本語教育に関わっている方（日本語教師、日本語指導者、日本語ボランティア、学校支援ボランティア） ・日本語教室を運営されている方 ・小中学校教職員（外国籍児童生徒等に関わる方及び関心のある方） ・その他、地域教育に関心のある方					参加者	総数 38人 （受講者 30人， 指導者・支援者等 8人）			
カリキュラム案活用	『日本語教育人材の養成・研修の在り方（報告）改訂版』 P96:教育課程編成の目安:日本語教育コーディネーター【地域日本語教育コーディネーター】研修（本冊子の想定単位時間数は30単位時間のうち、本事業では18時間実施）									
使用した教材・リソース	ー									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			2							28
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名		補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年8月23日（日） 13:30～15:30	2	坂祝町役場	23	地域日本語教育の プログラムデザイン	地域で活動するコーディネーターになるには 及び 当講座のガイダンス		東海日本語ネットワーク 副代表 米勢 治子氏		近藤利恵 小島瑞貴 山田久子
2	令和2年8月29日（土） 13:30～15:30	2	坂祝町役場	25	在住外国人と 日本語教育	さまざまな施策や制度を知る 「生活者としての外国人」に対する 日本語教育とは、またそれを どうコーディネートしていくか		文化庁日本語教育専門職 松井 孝浩氏		近藤利恵 小島瑞貴 吉田さゆり
3	令和2年9月13日（日） 13:30～15:30	2	坂祝町役場	23	地域日本語教育の プログラムデザイン	問題解決能力をつける 現状把握から、課題設定、課題解決に 向けた方略の検討方法を知る		可児市NPO協会 理事長 山口由美子氏		近藤利恵 小島瑞貴
4	令和2年10月18日（日） 13:30～15:30	2	坂祝町役場	20	在留外国人と 日本語教育 日本語教育に関わる 人材の育成	地域の現状を知り、活動につなげる・人材 育成の考え方や手法を学ぶ ～可児市国際交流協会の事例より～		可児市国際交流協会 事務局長 各務 真弓氏		近藤利恵 小島瑞貴
5	令和2年11月29日（日） 13:30～15:30	2	坂祝町役場	20	地域日本語教育の 体制整備に向けた コーディネーターの 役割	地域日本語教育に関わる人材や 関係機関及び在住外国人の把握と ネットワーキング ～各務原市役所職員の立場より～		各務原市役所観光交流課 梅田 宅真氏		近藤利恵 小島瑞貴
6	令和2年12月20日（日） 13:30～16:30	3	Zoom	17	地域日本語教育の プログラムデザイン	参加者の取り組み発表（中間報告）を聞く		東海日本語ネットワーク 副代表 米勢 治子氏		近藤利恵 小島瑞貴
7	令和3年2月21日（日） 13:30～15:30	2	Zoom	18	地域日本語教育の 体制整備に向けた コーディネーターの 役割	ファシリテーション力とは		NPO法人 PAVLIC 河野 悟氏		近藤利恵 小島瑞貴
8	令和3年3月7日（日） 13:30～16:30	3	Zoom	18	地域日本語教育の プログラムデザイン	参加者の取り組み発表（最終報告）を聞く		東海日本語ネットワーク 副代表 米勢 治子氏		近藤利恵 小島瑞貴

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 令和2年10月18日】

地域の現状を知り、活動につなげるための方法を学んだ。グループワークでは、受講者たちが当研修の中で作成する実践活動計画シートに落とし込めるような体験をした。

- ・自分がやりたいことは何か。→なぜ、やりたいと思ったか。それをやるとどうなるのか。
 - ・課題だと思っていることは何か。→何をを目指すのか。現状はどうなっているのか。課題解決するには、どうすればいいか。
 - ・自分1人で取り組むのは大変である。→具体的に取っかかれることは何か。誰が協力してくれたらできるのか。
- それらのことを「言葉」にすることが大事。5枚程度の用紙を使い、紙芝居で表現する。協力者にプレゼンするような形で、発表をした。



○取組事例②

【第8回 令和3年3月7日】 最終報告会

全員Zoomで行った。中間報告でアドバイザーや受講者からのコメントを受け、自身の取り組みの方向性や進め方を見直し、最終報告で課題(問題点)・取り組み・成果・新たな課題(問題点)を発表した。事前に要旨(A4・1枚)を作成、受講者全員分を一冊の冊子にして、お手元に置きながら、発表会を進めた。発表はパワポ4枚にまとめたものを示しながら、一人5分間で説明をした。発表後、講師は一人一人にコメントを残した。全大会では8ヶ月の研修を終えて振り返り、感想を述べあった。



(2) 目標の達成状況・成果

講師には、地域日本語教育、さまざまな施策や制度、問題解決能力をつける、地域の団体、行政の事例、ファシリテーション力などさまざまな観点からコーディネーター力の必要性や重要性、課題解決方法をお話していただいた。共通して言えることは「連携」「協力先」、そして、自分の立ち位置の整理だった。受講者からは、最初はこの研修をやりきれるか不安だったけど、実際取り組んでみて良かったという感想が多数あり、研修をやり終えた達成感があったようだ。中間報告から最終報告にかけて、取り組みを見直したり、方向性を修正したり、変遷があったことに、受講者の意気込みを感じた。

【受講者の講座アンケート結果】

- ・行政や制度の面、活動資金のやりくり、ビジネスパーソンならば知っていて当たり前であろう目標設定と実行の仕方など、普段の業務で足りないと考えていたところがたくさん学べた。
- ・求めた事柄と知りたいと思っていた事柄を知ることができた。とても分かりやすく次の活動に生かせることがとても多くあった。
- ・講義を初めて聞いた時、意味がよく分からなかったが、だんだんと実践内容を考えていくうちに「そういうことか」と腑に落ちるようになった。
- ・さまざまな視点から多文化共生、日本語教育について考えるきっかけになった。
- ・オンラインでの開催だったけど、とても楽しかったし講師の考え方に共感することができた。コーディネーターに必要な力や考え方を学ぶことができた。
- ・近視眼的になり、煮詰まりがちな問題解決法に他の人、機関との連携という新しい考え方を得ることができた。
- ・具体的に課題解決のためのステップを学ぶことができた。
- ・問題解決のために具体的にどのような手法を使えばよいかワークショップで学ぶことができた。
- ・ビジョン設定から課題解決に向けた過程の可視化や連携の必要性・考え方の整理、コーディネーターとして必要な視点等、大変参考になった。
- ・コーディネーターとしての役割について知ることができたため、連携しながら活動することについて学ぶことができた。

(3) 今後の改善点について

現在、コーディネーターではない方が受講され、講義内容に最初は戸惑われたようだった。講義を受けていくうちに、不安な気持ちは解消されると期待していたが、既にコーディネーターがいる組織の中で活動されている支援者にとっては、当研修を受けることで、自身の支援者という領域を超えてしまい、コーディネーターとの関係性が壊れてしまうのではないかと心配されていた。しかし、当研修は、コーディネーターに必要な力や考え方を学んで、支援者・指導者であっても、地域の実情を知り、課題を見つけ、取り組み、成果と新たな問題点を整理できるようになることが目的であって、どうしても組織という枠組みから外せない受講者には、視点を変えて取り組むように話し合った。

また、課題は見つかるが、まずどこを解決しなければならないのかが抽象的であったり、市の職員など行政がやることであるような壮大な設定になっている受講者も数名いた。支援者としてやれることは何か、が整理できていない。しかし、それを整理してみると自分では課題解決できないと捉えてしまい取り組みを断念してしまう。ということがあった。研修の辞退者には一人一人ヒアリングを行い、設定された課題が解決できるようなアドバイスをさせていただきながら、聴講生として引き続き参加してもらうように促した。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:現場で考える外国籍児童生徒等日本語指導者研修】										
取組の目標		外国籍児童生徒の母文化を知り、背景や気持ちを考えながら日本語指導ができるようになる 外国籍児童生徒、及びその保護者の気持ちになり、支援のあり方を考える								
内 容		(1)(2)会場を小学校6年生と中学校2年生の教室にし、児童・生徒・学校教員(含む講師)、地域日本語教室の日本語指導者も一緒に、研修を受けた。 異文化理解:フィリピン、ブラジル 講師は、さまざまな人種や、貧富について、生活スタイル、食事、習慣、教育制度など、あらゆる分野について画像や映像を交えながら、わかりやすく説明された。 (3)会場を幼稚園にし、教員(含む講師)、地域日本語教室の指導者も一緒に研修を受けた。 講師は、可児市国際交流協会が運営する就学前支援「ひよこ教室」の事例から、子どもの成長歴や背景を知る大切さ、日本語でどのように指導するのか、保護者対応について日々取り組まれていることを中心に、質疑応答を入れながら講義された。 (4)通訳・翻訳以外にも伝える手段として「やさしい日本語」を知り、やさしい日本語を使う際に必要なことや注意点などを学んだ。								
実施期間	令和2年10月8日～令和2年10月24日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 3回 = 6時間 1回 1.5時間× 1回 = 1.5時間 総時間 7.5時間			
対象者	・日本語教育に関わっている方(日本語教師、日本語指導者、日本語ボランティア、学校支援ボランティア) ・小中学校及び幼稚園保育園教職員(外国籍児童生徒等に関わる方及び関心のある方)				参加者		総数 173人 (受講者 165人、指導者・支援者等 8人)			
カリキュラム案活用	『日本語教育人材の養成・研修の在り方(報告)改訂版』P86・87:児童生徒等に対する日本語教師【初任】のカリキュラム案(本冊子の想定単位時間数は60単位時間、本事業では7.5時間を実施)									
使用した教材・リソース	-									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			5						3	157
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名		補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年10月8日(木) 8:30～10:30	2	坂祝町役場 坂祝小学校	75	文化間移動と適応	異文化理解 ～外国のお友だちの文化を知ろう・ 小学校編～		フィリピン:カミリング・マルジ氏 ブラジル:村上ヴァネッサ氏		近藤利恵 小島瑞貴
2	令和2年10月9日(金) 13:30～15:30	2	坂祝中学校	74	文化間移動と適応	異文化理解 ～外国のお友だちの文化を知ろう・ 中学校編～		フィリピン:カミリング・マルジ氏 ブラジル:吉田よしえ氏		近藤利恵 小島瑞貴
3	令和2年10月16日(金) 15:30～17:00	1.5	坂祝幼稚園	11	児童生徒等の日本語教育・支援現場の実際	外国にルーツのある子どもの就学前支援多文化共生の視点から ～可児市国際交流協会就学前支援「ひよこ教室」の事例～		可児市国際交流協会 戸塚 真希氏		近藤利恵 小島瑞貴
4	令和2年10月24日(土) 13:30～15:30	2	坂祝町役場	8	言語習得	やさしい日本語について学ぶ		東海日本語ネットワーク 副代表 米勢 治子氏		近藤利恵 小島瑞貴

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回・2回 令和2年10月8・9日】

相手の文化を知り、理解し、受け入れることでより良い人間関係が築ける。そして、日本に来たからといって日本のルールを押し付けるのは、どうなんだろうか。ずっと生きてきた文化を変えるのは容易ではない。相手の立場になって考えることが大事であることを学んだ。



○取組事例②

【第3回 令和2年10月16日】

可児市国際交流協会が運営する修学前支援「ひよこ教室」の事例から、子どもの成育歴や背景を知る大切さ、日本語でどのように指導するのか、保護者対応について学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

小中学校の児童・生徒に分かりやすい講座だったため、子どもたちが異文化を受け入れる大切さを理解し、外国籍の子どもたちの接し方に変化が現れたと学校の先生から報告があった。日本語指導を行う際、外国籍の子どもの心理的に影響がないかどうか、探る手立てになり得る。会場を学校の教室にしたことで、児童生徒・教員・日本語指導者が同時に同じ気持ちや感覚でいることができた。外国人や外国人と接する人の心配ごとや困っていることをみんなと一緒に共有することができた。教育長の承諾により、この研修会場での実施が実現できた。

(3) 今後の改善点について

日本語指導が必要な児童生徒が年々増えている中、日本語能力が不十分で学校の授業についていけないことから不登校を引き起こしてしまったり、地域の日本語教室で、学習補習の支援が必要になったりしている。支援が必要な子どもの背景は多様で、日本語指導者研修の必要性は高い。しかし、地域の日本語教室で支援している日本語指導者だけが、研修対象でいいのだろうか。学校の中では問題はないのだろうか。教員へ地域の支援団体が研修を呼びかけても、働き方改革が優先され、就業時間外の参加は極めて少ない。それを改善するために、本事業運営委員会の構成メンバーである教育長と協議をし、公立小中学校及び幼稚園の中で、児童生徒、教員及び地域日本語教室の日本語指導者の研修が実現した。しかし、今回だけでは、地域日本語教育としての考え方や支援の意義を学ぶには不十分である。参加者アンケートで「会場が自分の職場で就業内だったから参加した」という意見があったり、第4回目「やさしい日本語」の講座には、第1回～3回目の対象だった小中学校、幼稚園の教員が、たくさん参加してくれるだろうと想定したが、参加者ゼロであったり依然として関心のなさが如実に表れた。地域の日本語教室の日本語指導者は、学校の先生がどのような指導法でどのように子どもと接しているのかを知り、学校の先生は地域の日本語教室で、日本語指導者がどのような事に気を付け、日本語教育を行っているのかを知る。地域の日本語教育という大きなフィールドの中に双方がいることで、子どもの支援が効率的に行えるという認識が持てるような連携会議を行ったり、常に研修の意義や在り方を続ける必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:日本語支援者養成講座】	
取組の目標	坂祝町の日本語教室の日本語ボランティアを増やすため、及び育成するため 他地域の日本語教室の支援者と交流し、坂祝町の日本語教室の在り方を考える ・いろいろな日本語教室に関わってみる

内 容		坂祝町の日本語教室の支援者には、特別な資格や経験は必要としておらず、誰でもできる身近な支援として、日本語支援者を随時、募集している。今年度、本講座の中で近隣地域の日本語教室で「サポート体験」をして「私にもできる」という感覚を味わったり、支援者から話を聞いて交流を図る。 (1)地域日本語教室とは～日本語ボランティアの役割～ (2)～(4)地域の日本語教室の見学。学習者及び支援者との交流 ・可児市国際交流協会「土曜日日本語教室」「日曜日日本語教室」 ・美濃加茂国際交流協会「生活のための日本語コース」 ・関市・日本語講座「水曜日教室」 (3)講座及び見学の振り返り									
実施期間		令和2年8月9日～令和2年9月27日の予定だったが、コロナ感染予防対策の為全中止				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 2回 = 4時間 1回 2.5時間 × 3回 = 7.5時間 1回 3時間 × 1回 = 3時間 総時間 14.5時間 の予定だったが、コロナ感染予防対策のため全中止			
対象者		日本語支援に関心のある方 いろいろな日本語教室に関わってみたい方				参加者		総数 0人 (受講者 0人, 指導者・支援者等 0人)			
カリキュラム案活用		『日本語教育人材の養成・研修の在り方(報告)改訂版』P61:日本語学習支援者における教育内容									
使用した教材・リソース		-									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
養成・研修の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和2年8月9日(日) 13:30～15:30	2	坂祝町役場	-	地域日本語教室について	地域日本語教室とは ～日本語ボランティアの役割～ 講師:米勢 治子氏		コロナ感染予防対策の為 会場使用制限あり 坂祝町及び関係各所の 協議の結果、講座開催は中止となった。			
2	令和2年8月16日(日) 13:30～16:00	3	可児市多文化共生センター フレビア	-	地域日本語教室の多様性	地域の日本語教室の見学・ 学習者及び支援者との交流 ～可児市国際交流協会 「日曜日日本語教室」～					
3	令和2年8月29日(土) 18:30～21:00	2.5	可児市多文化共生センター フレビア	-	地域日本語教室の多様性	地域の日本語教室の見学・ 学習者及び支援者との交流 ～可児市国際交流協会 「土曜日日本語教室」～					
4	令和2年9月9日(水) 18:30～21:00	2.5	美濃加茂市生涯学習センター	-	地域日本語教室の多様性	地域の日本語教室の見学・ 学習者及び支援者との交流 ～美濃加茂国際交流協会 「生活のための日本語コース」～					
5	令和2年9月23日(水) 19:00～21:30	2.5	わかくさ・プラザ 学習情報館	-	地域日本語教室の多様性	地域の日本語教室の見学・ 学習者及び支援者との交流 ～関市・日本語講座「水曜日教室」～					
6	令和2年9月27日(日) 13:30～15:30	2	坂祝町役場	-	日本語学習支援	講座及び見学の振り返り					

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

コロナ感染予防対策の為
会場使用制限あり

坂祝町及び関係各所の
協議の結果、講座開催は中止となった。

○取組事例②

コロナ感染予防対策の為 会場使用制限あり 坂祝町及び関係各所の 協議の結果、講座開催は中止となった。
--

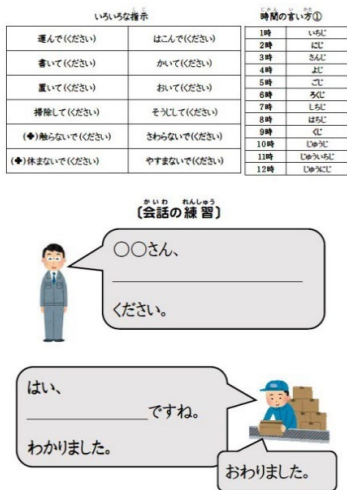
(2) 目標の達成状況・成果

近隣地域の日本語教室で支援者間交流を図りたいという意見は、他団体からもよく挙がってくるため、今回のコロナ感染予防のため全中止は非常に残念だった。今後、計画の一つに残していきたい。
--

(3) 今後の改善点について

--

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：仕事で役立つ日本語】			
取組の目標	2019年度に作成した教材の検証を行う。		
内 容	2019年度の教材を検証しながら、読み・書きの練習を中心として良好な人間関係を継続できるような教材を意識した。 毎回、Webテストができ自宅へ帰っても学習ができるような工夫をした。 ①初めて会う ②あいさつをする ③新しい友達を作る ④することがわかる ⑤電話で連絡をする ⑥仕事を休みたい ⑦わからないことを聞く ⑧困ったことを伝える ⑨気遣いに答える ⑩誘いに答える		
実施期間	令和2年10月5日～令和2年12月14日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 30回 = 60時間
対象者	日本語初級～中級者	教材の頁数	53ページ
カリキュラム案活用	2019年度に作成した教材を検証する計画をしていたため活用したところは少ないが、受講者の日本語能力としての評価ができるようにした。		
事業終了後の教材活用	地域日本語教室で使用する教材として、当町の日本語教室で使用するだけでなく、日本語教室がある大学や町内企業にも広く活用していただけるよう、紹介する。		
成果物のリンク先			



外国人向けFacebookでの発信や、チラシでの応募、自治会に加入していない外国人に知っていただくため、幼稚園・小・中学校にもチラシを配布した。本事業の報告については、町のホームページにて周知していく予定。

(6) 改善点, 今後の課題について

坂祝町では、日本語教室を運営していく専門的人材の職員がいらないなか、協力していただいた関係者の方々のお力を借りながら2年間文化庁「生活者」事業を進めてきたが、教室を開催することに精一杯であった。
在住外国人が坂祝町＝日本語教室という概念を持っていただくことができなかったことが課題であった。それは、町自体の日本語教室を初めとした多文化共生の取り組みを住民の方に周知できていなかったからだと考える。1個目の改善策として、町広報誌を利用して「多文化共生と日本語教育」という特集を組んだ。ここから、町の取り組みを地域全体に広く知れ渡ることを期待している。
この課題を鑑みて、令和3年度は県の補助金を活用し規模を小さくして日本語教室を開講し、今までのスキルを活用しながら坂祝町らしい日本語教室を実現していきたい。

(7) その他参考資料

- 親子で学ぶ日本語教室 チラシ
- 職場で役立つ日本語教室 チラシ
- 多読で学ぶ日本語教室 チラシ
- 生活の日本語教室 チラシ
- 地域で活躍するためのコーディネーター研修 チラシ
- 現場で考える外国籍児童生徒等日本語指導者研修 チラシ
- 日本語支援者養成講座 チラシ
- 職場で役立つ日本語教室 作成教材
- 地域で活躍するためのコーディネーター研修 要旨